

8月2日の朝のニュースでバドミントンダブルスの女子選手3カ国、8人が競技失格となったという情報が流れた。「えっ、どういうこと？」と誰もが疑問に思ったことでしょう。わざと負ける。事をしたということである。

サッカー、なでしこジャパンの場合は、あれは作戦である。1位通過ではこういう状況になる、では2位通過ではどういう状況になるのか。試合会場の地理的な条件、選手の肉体的な条件、ある選手には疲れをとらせ、ある選手にはここぞとばかりに暴れさせる。その中で作戦を組み立てる。なでしこの場合はそういう事を踏まえての作戦であった。

すべてを見ていたわけではないが誰がみてもやる気を感じられないプレーで注意を受けていた。そこにはやはりメダルだけを狙っている選手というように映ってしまう。選手からすればメダルがすべてという気持ちをわかる。したがってメダルに関係ない試合は消化試合になる。要はその消化試合への取り組む気持ちの問題であろう。

よく調べてみると今回からバドミントンはリーグ戦形式をとっているということだ。以前はトーナメント形式であったのでこのようなことはなかったのではないか。いずれにしてもOlympicという場所でこのような試合は見たくない。予選敗退した選手たちもいる。それらを代表した選手なのだから、やっていいことと悪いことがある。以前なら考えられないことであろう。選手だけを責めるのは酷で、こういう試合形式を導入した協会サイドにも責任はあると思う。

選手がオリンピックに参加することに意義があることにもう一度きづいてほしい。そして全力でプレーする姿をみせることも選手の役目であるはずだ。今後このようなことのないようにバドミントン連盟が中心になって考えてもらいたい。